



「〇〇ホタルブクロ (〇蛍袋)」

2024年6月4日

6月に入り、梅雨入りも近づいてきましたが、とても晴れわたったな爽やかな季節です。朝、校門前で登校してくる生徒に挨拶をした後、昔の阿南高生の通学路でもあった御供商店街を歩きました。



通り沿いの庭先や花壇、鉢植えには、初夏の花々が咲いています。そんな中、石垣に「ホタルブクロ」が咲いていました。



「ホタルブクロ」は日本の各地（北海道から九州まで）に自生しており、野道や山道でお馴染みの花ですね。薄紫色した釣り鐘状の花で、英名

は「bellflower (鐘の花)」、花言葉は「希望」だそうです。



花の名の由来はいくつかの説があるようですが、袋状の花の中にホタルを入れて遊んでいたことが有名です。実際にやったことはありませんが、さぞ美しいことと思います。

ホタルブクロを調べてみると、花の付け根の萼片(ガクヘン)の形状が異なる「ヤマホタルブクロ (山蛍袋)」もあるそうです。

見分け方は

- ・ホタルブクロは萼片(毛あり)の切れ込みが反り返っている
- ・ヤマホタルブクロはその部分(毛なし)が反り返らず膨らんでいる



となるとこの花は、どうやら「ヤマホタルブクロ (山蛍袋)」のようです。

森に住むカエル「モリアオガエル」

2024年6月7日

昨年の9月、阿南町のある湿地で(たぶん)モリアオガエルを見かけたので、その場所に行ってきました。



すると湿地の水たまりに

たくさんのオタマジャクシがいるじゃないですか。オタマジャクシのいる水たまりの上を見上げてみると

この泡状の塊は、モリアオガエルの卵塊ですね。

ふつうカエルは水中に産卵するのですが、モリアオガエルは水中でなく樹上に産卵します。ただ卵から孵ったオタマジャクシが(卵塊から落下して)困らないように、水面上にせり出した木の枝(や草)に産卵します。とても珍しい産卵方法ですね。



モリアオガエルはアオガエルを代表種で名前の通り森に住むカエルです。森の中の涼しい場所に生息しています。アマガエル(一番よくみるカエル)やシュレーゲルアオガエルに似ていますが、アマガエルやシュレーゲルに比べるとずっと大型で、眼の(虹彩)の色が赤いのがモリアオガエルの特徴です。去年見かけたカエルは大型ではあったのですが、



前から写真に撮ろうとしたら逃げられてしまい、残念ながら眼の色の確認はできませんでした。

←昨年の写真 モリアオガエル(?)

モリアオガエルは飯田市や高森町などでも確認されていますが、全国的には生息数はかなり減ってきており、絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されています。

このたくさんのオタマジャクシがカエルの姿となって、無事に森に帰れますように。



IMG_3693

「ナンテンハギ (南天萩)」

2024年6月9日

御供商店街通り路肩脇で見つけました。



葉の形がナンテン(南天)に、花がハギ(萩)に似ていることから「ナンテンハギ」と呼ばれています。ナンテンとは科が異なり、花の形状からもお分かりのように、こちらは「マメ科」(ハギもマメ科)です。なかなか美しい青紫色の花です。

葉の形はナンテンに似ていますが、葉は2枚ずつ付いているため別名「フタバハギ(二葉萩)」とも呼ば



れています。秋の七草で有名な萩（代表的なものはヤマハギ）の葉はふつう3子葉で、今回のナンテンハギはソラマメの仲間のようなのです。

・2子葉のナンテンハギ と 赤い実のなるナンテン（とのその花）

春の若い芽はアズキナ（小豆菜）と呼ばれ、おひたしや天ぷらにして食べられるそうです。山菜としても親しまれているようですね。



咲き終わった花からエンドウのような実が付き始めています。花もよく似たヨツバハギと呼ばれる植物もあり、名前のおり小葉が4枚です。こちらはかなり個体数を減らしており、地域によってはレッドデータブックに記載され絶滅が危惧されています。昨年何箇所かで（多分ヨツバハギを）見かけたので、花が咲く夏から秋、もし見つけることができれば紹介したいと思います。

可憐に佇む「ササユリ（笹百合）」の花



2024年6月11日
淡い清楚な桃色の花が、山間の小径に凛々しく咲いています。「ササユリ（笹百合）」です。葉が細く、笹の葉に似ていることが「ササユリ」の名の由来です。確かに、花がなければササそっくり

です。日本特産のユリで、中部地方から九州にかけて自生しておりますが、関東では見る事ができないそうです。ササユリは繁殖力が弱く、成長も



遅い（種から開花まで7~8年）ため、加えて乱獲や乱開発によって自然のササユリの姿を見る事が少なくなっているユリです。昨日の信濃毎日新聞にも飯田市大瀬木の梅ヶ久保公園のササユリが記事



になっていましたが、保護しないと見られない貴重な花になっています。

これからも、この清楚で可憐な姿が見られる南信州・阿南の自然を大切に守っていききたいものです。こ

一日花「ユウスゲ（夕萱）」

2024年7月8日

学校からの帰り道、レモンイエローの可憐な花が咲いてました。「ユウスゲ（夕萱）」です。夏の夕方に開花し、翌朝にはしぼんで



しまう、一日だけの儂い花です。別名で「キスゲ（黄萱）」とも言います。

似たような花に「ニッコウキスゲ」や「ノカンゾウ」「ヤブカンゾウ」もありますが、こちらは日中に咲く花です。「ニッコウキスゲ」は高原の湿原に自生し、日光の尾瀬沼や長野の霧ヶ峰や車山などが有名ですね。飯田下伊那で唯一ニッコウキスゲが見られるのは阿南町新野の大村湖です。今週、そちらの方に行く用事があるので、見てこようと思います。一方、「ノカンゾウ」や「ヤブカンゾウ」は川原の土手や田んぼの畔などでよく見かけ、鮮やかなオレンジの花を咲かせるとても身近な植物です。



今回見つけた「ユウスゲ」は、道路の法面で咲いてましたので、もしかしたら誰かが植えたのかもしれない。こちらはどこでも

見かける「ヤブカンゾウ（藪萱草）」です。ノカンゾウの花びらは6枚で、ヤブカンゾウは写真のように八重咲きで花びらが何枚もあります。ノカンゾウもヤブカンゾウも若葉・つぼみは食用でき、酢味噌あえが美味しいようですよ。【おまけ】

今年もゴージャスな「ヤマユリ」の大輪が咲きはじめました。（阿南高校の敷地内）昨年の校長ブログ「ヤマユリ」で取り上げてますので、良かったらご覧ください。

